

# 産科婦人科学

科目責任者 深澤 一雄  
学年・学期 3学年・3学期

## I. 前文

産科は主として妊娠・分娩・産褥という一連の生殖過程，並びにその異常を取り扱うが，同時に出生児（新生児）管理も行い，小児科学と密接な関係を有する。（周産期医学）。一方，婦人科学は特に女性性器疾患の診断・治療を軸として分化・発展してきた学問で，裡に外科的，内科的性格を併せ持っている。同学は女性の性機能の生理と病態を通してその乳幼児期，思春期，性成熟期，更年期，老年期という女性の全生涯に関与する，まことに守備範囲の広い学問である。加えて近年の分子生物学やMEの急速な発展とその臨床応用があり，学ぶべき情報量は膨大なものとなっている。限られた時間内にこれらすべてを教授することは困難であるが，下記の学習目標に沿って要領よく講義を進めたい。全てが細分化された現状では数人で全領域を講義することは不可能であり，時に有害である。参考書丸写しによる素人同然の講義は学生ならずと眠くなるであろう。従って，産科婦人科学は名誉教授，特任教授，埼玉医療センターの先生方，さらに非常勤講師の先生方にも参加頂き，その専門分野の講義を担当して戴いた。教科書に載っていないお話にも耳を傾けて戴きたい。

## II. 担当科（教授）

深澤 一雄 （産科婦人科学）  
北澤 正文 （産科婦人科学）  
宮下 進 （産科婦人科学）  
田所 望 （産科婦人科学・教育支援センター）  
高倉 聡 （埼玉医療センター・産科婦人科）

## III. 一般学習目標

産科婦人科学を産婦人科臨床の基礎，生殖内分泌医学，周産期医学，婦人科腫瘍学，更年期医学，感染症，他の6領域に大別し，少なくともそれぞれの知識のゴールデンスタンドは十分理解出来るような講義内容とした。また，最新の医療情報，学問上のトピックスについても講義中に各専門家より随時ご紹介戴き，さらにBSLでは実地に体験・学習させたい。

## IV. 学修の到達目標

各項目別の理解・習得目標は以下の如くである。

- (1) 産婦人科臨床の基礎－女性性器の発生・分化・解剖の再確認と産婦人科的診察法の習得。
- (2) 生殖内分泌学－間脳・下垂体・卵巣系の内分泌機構，及びその異常の理解，さらに最新医療としてのassisted reproductive technology (ART) の理解。
- (3) 周産期医学－妊娠・分娩の正常経過とその異常，妊娠・分娩管理，特に妊娠合併症の管理について習得，さらに正常新生児取り扱いに関しても学習。
- (4) 婦人科腫瘍学－女性性器（外陰・子宮・卵巣）の良性・悪性腫瘍の分類・診断・治療，発癌機構の理解。
- (5) 更年期医学－更年期より老年期に至る婦人の生理，病態の把握，またquality of life (QOL) に基づいたhormone replacement therapy (HRT) に代表される治療の必要性の理解。
- (6) 感染症，他－STDなど婦人科特有の感染症の診断・治療，及びB, C, G, 型肝炎ウイルス，成人T細胞白血病ウイルスに代表される周産期母児垂直感染症などの紹介。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	2	月	1	ガイダンス (①産婦人科紹介②診療・検査・治療法)	産科婦人科学 深澤 一雄
2		2	月	2	性器の発生と分化及び性分化疾患, 性器の形態異常 (子宮奇形), 性器の位置異常 (子宮脱)	教育支援センター 稲葉 未知世
3		2	月	6	性の分化 (機転と異常)	林 雅 敏
4		6	金	1	性周期-間脳・下垂体・卵巣系における内分泌機構	産科婦人科学 北澤 正文
5		6	金	2	不妊症-原因・診断・治療 (ART含む)	産科婦人科学 北澤 正文
6		9	月	6	産婦人科領域の遺伝子診断	産科婦人科学 宮下 進
7		13	金	1	妊娠の成立と維持	産科婦人科学 宮下 進
8		13	金	2	妊娠管理-妊婦健診・modified BPP等	産科婦人科学 宮下 進
9		13	金	3	産婦人科ME (超音波・CTG)	産科婦人科学 宮下 進
10		20	金	5	妊娠の異常-流・早・過期産	産科婦人科学 坂本 尚徳
11		20	金	6	妊娠の異常-多胎妊娠	産科婦人科学 坂本 尚徳
12		25	水	4	胎児-発育・生理・胎児付属物	産科婦人科学 渡辺 科学博
13		25	水	5	加齢と性機能・病態・治療	産科婦人科学 望月 善子
14		25	水	6	子宮内膜症	埼玉・リプロダク ションセンター 杉本 公平
各3		27	金	4	卵巣・付属器の病理	病理診断学 清水 和彦
各3		27	金	5	産科・胎盤の病理	病理診断学 清水 和彦
各3		27	金	6	子宮頸部の病理	病理診断学 平林 かおる
各3	12	1	火	1	子宮体部の病理	病理診断学 平林 かおる
19		3	木	2	周産期母子垂直感染症	教育支援センター 稲葉 未知世
20		4	金	1	妊娠の異常-合併症妊娠	産科婦人科学 宮下 進
21		7	月	4	妊娠の異常-妊娠高血圧症候群	埼玉・産科婦人科学 濱田 佳伸
22		7	月	5	妊娠の異常-異常性妊娠・前置胎盤・癒着胎盤	産科婦人科学 掛田 充克
23		10	木	4	分娩-分娩の3要素	教育支援センター 田所 望
24		10	木	5	分娩管理	教育支援センター 田所 望
25		10	木	6	月経異常-病態・診断・治療	埼玉・産婦人科学 坂本 秀一
26		11	金	7	産科の基本手術	産科婦人科学 宮下 進

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
27	1	5	火	4	異常分娩（出血・ショック含む）	教育支援センター 田 所 望
28		5	火	5	産褥－正常・異常（病態・治療）	教育支援センター 田 所 望
29		6	水	5	婦人科腫瘍の検査・診断	産科婦人科学 鎌 田 裕 之
30		7	木	7	その他の婦人科悪性腫瘍（卵管癌，腹膜癌，子宮肉腫）	産科婦人科学 長谷川 清 志
実 31		8	金	5	病理実習1	病 理 診 断 学 黒 田 一
32		8	金	7	子宮筋腫－病態・診断・治療	産科婦人科学 稲 葉 不知之
実 33		12	火	1	病理実習2	病 理 診 断 学 黒 田 一
実 34		12	火	2	病理実習3	病 理 診 断 学 黒 田 一
35		14	木	4	子宮体癌-疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 長谷川 清 志
36		14	木	5	卵巣悪性腫瘍－疫学・診断・治療・予後	産科婦人科学 長谷川 清 志
37		18	月	1	絨毛性疾患－病態・診断・治療	産科婦人科学 深 澤 一 雄
38		18	月	2	産婦人科領域の腹腔鏡	産科婦人科学 北 澤 正 文
39		18	月	3	外陰・膣－良性・悪性腫瘍の診断・治療	産科婦人科学 香 坂 信 明
40		19	火	1	子宮頸癌-疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 平 井 康 夫
41		19	火	3	卵巣腫瘍（良性・悪性）－診断・治療	埼玉・産科婦人科学 高 倉 聡

注) 上表のうち、左端の「各3」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論Ⅲ」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「産科婦人科学」の授業とともに表記されている。

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

学期末試験

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

参考書：へるす出版 産婦人科学

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP      ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①提出されたレポート内容に関して質問します。
- ②試験の結果を解説します。

X. 求められる事前学習，事後学習

事後学習として配布された資料をもとに内容を整理すること（30分）。

XI. コアカリ記号・番号

- A-1-2) 患者の安全を最優先し，常に患者中心の立場に立つ。
- A-4-1) ③患者・家族の話を傾聴し，共感することができる。